

公益社団法人栗東市シルバー人材センター

令和3年度事業報告

令和3年4月1日から令和4年3月31日

令和3年度は、「コロナ禍」、「新しい生活様式」などという言葉のとおり、新型コロナウイルス感染拡大防止に対する1年でした。5月の第4波では、国内感染が7000人を超え、オリンピックの開催に合わせて第5波が訪れ、年明けからさらなる拡大の波が押し寄せて第6波として猛威を振るいました。

滋賀県の経済状況は、全国的に新型コロナウイルス感染症の拡大と緊急事態宣言が繰り返される中で、県内消費の回復ペースは鈍いものとなり、企業の業績は、製造業を中心とした国内経済の緩やかな回復を背景に業績回復が見られました。ある経済研究所の分析によると滋賀県の経済成長は、前年度比3.8%と2年ぶりのプラス成長となりました。

このような状況の中で、4月にBCP（新型コロナウイルス感染症事業継続計画）を策定し、それに沿って事業を推進しました。その中で在宅勤務や濃厚接触者等の今まで経験したことない状況が次々と現れ、それに対応し判断を迫られることが続いた一年でありました。センターの事業運営は、厳しいものがありましたが、新たな就業先として市役所よりワクチン接種関連の発注をいただき、前年度比1.5%増を達成することができ、昨年並みの実績を保ち大きな落ち込みをすることはありませんでした。

このコロナ禍で、全国的に会員数が激減する中であって、会員数の第一次中期計画の最終目標数値を、達成するのは不可能と思われていましたが、年度末に向けての知恵を出して取り組んだ事の相乗効果が現れ、目標の495名を上回ることができました。

また本年度は、第一次中期計画の最終年度であり、総括の年でもありました。最終の2年間は、コロナ禍ではありましたが、事業実績も大きな落ち込みもなく前年度並みの結果を示すことができました。また、会員の拡大も当初の目標を上回る結果をもって締めくくることができました。今後も、会員の皆様をはじめ役員、職員が一丸となり第二次中期計画の「目指すべきセンター像」に基づき、より一層の努力を傾けてまいります。

（会員の推移）

令和3年度末の会員数は496人で、中期目標達成はできました。男女の内訳は男性331名（66.7%）女性165名（33.3%）となっており、今年度は、女性会員の拡大をすることができました。また平均年齢は74.8歳（男性75.3歳、女性73.8歳）と横ばいとなっています。

（受託事業・一般労働者派遣事業の実績）

令和3年度の契約件数は3026件で前年度から5.6%減っています。
契約金額は207,368千円余で、前年度よりは1.5%の増となりました。
受託事業の令和3年度の契約金額は、前年度より8,726千円少ない
124,685千円で前年度より6.5%の減となりました。
派遣事業の令和3年度の契約金額は、前年度より11,808千円多い
82,682千円で、前年より16.7%の増となりました。

1. 安全就業の強化

毎年、会員への安全意識の向上に取り組んではいますが、第一次中期計画の総括からも年々事故件数が増え、賠償責任事故の補償額も高額化しています。今年度も安全大会を開催できませんでしたが、全会員へ毎月の文書配付時に安全ニュースの配付を行い、安全意識の徹底を図ってまいりました。しかし、残念ながら今年度も傷害事件1件、賠償責任事故3件が発生しました。このような事故の中に重大事故の芽が隠されていることを踏まえて、今後も事故防止の徹底と安全意識の高揚を図ってまいります。

2. 会員の増強

全国的に会員の減少が叫ばれる中であって、中期目標達成は不可能と思われました。しかし、1月からのWeb入会の開始、1月から3月の入会費無料、会員募集の各戸配付、ワクチン接種会場での会員対象年齢者に直接会員募集のチラシ配付とポスターの張り出し等、知恵を絞ることができることに挑戦していく中で、第一次中期計画の最終目標を上回る拡大の結果を残すことができました。この経験を生かして更なる拡大に取り組んでまいります。

3. 就業機会の拡大

このコロナ禍にあって、栗東市からワクチン接種会場での就業をいただきました。また、社会情勢の変化に伴い派遣の仕事も増えました。発注者様からのお話を聞くと「シルバーさんは、会員さんも職員さんも発注者の立場に立って就業をしていただけるので、大変に助かっています」とお話しされていました。このように会員と職員が、シルバーの理念に則った行動と努力により、就業開拓に結果を出すことができたと確信しています。また、会員の多様なニーズや希望職種を参考に、就業機会の安定化と拡大に努めました。

4. 適正就業の推進

厚生労働省が推進する就業形態に応じた契約の適正化に伴って、発注者と協議し請負から派遣へと就業実態に即した適正契約に転換することができました。また、ワークシェアリングやローテーション就業に努めました。

今年度から全会員に就業相談依頼書を配付して、希望する会員からの相談を受ける体制を事業・適正就業部会で確立していただき、5名の相談を受け付けて対応することができました。

5. 普及啓発活動の強化

当センターのことを広く地域社会に周知するために、ホームページにセンターの紹介ビデオと理事長の挨拶ビデオを追加して、内容の充実等を図りました。また、SNS(フェイスブック、ツイッター等)を活用してセンターの情報の発信に努めました。センターニュース等は、コロナ禍で発行回数が減りましたが、広報誌「いきがい」は、年2回栗東市の各世帯に配付することができました。また、会員募集チラシや就業開拓チラシをポスティングにより戸別配付、栗東市老人クラブ連合会の広報誌「きらめき」第21号にセンターの記事を掲載していただきました。ワクチン接種会場では、ポスターの設置や会員募集のチラシの配布を行いました。さらに、10月実施の「シルバー 環境美化の日」(県下一斉清掃ボランティア)に参加し、シルバー事業の普及と啓発活動を行いました。

6. 就業能力の向上

本年度もコロナ禍の影響で、予定していた研修や講習会が実施できませんでした。そのような中でも、労働派遣法に基づく派遣業務就業会員と請負業務就業会員を対象とした刈払機取扱講習及び接遇マナー研修は実施できました。また、地域住民も対象とした剪定の講習会は、関係者のご理解とご協力を得て開催することができました。

7. 地域社会への貢献

就業やボランティア活動を通して地域貢献を進めてまいりました。就業面では、地域での生活支援や子育て支援を実施。ボランティア活動として「シルバー環境美化の日」の清掃活動や集めるボランティア活動を展開しました。また、昨年度実施できなかった看護専門学校生の実習受入、模擬患者協力は行うことができ、関係者から感謝の言葉をいただきました。

また、地域での社会的責任として、毎年取り組んで開催してまいりました会員対象の研修会や役員を対象とした人権研修や、職員の研修派遣も開催中止となり実施することができませんでした。

8. 運営体制の強化

今年度もコロナ禍で、在宅勤務や感染対策の実施など、数多くの制限を受けましたが、理事会をはじめ各種委員会・部会は、目の前の壁を乗り越え、会員の皆様をはじめ役員、職員が一丸となり事業運営を行い、少しではありますが、事業実績は昨年度を上回り、会員拡大は、最終目標を上回る結果を出すことができました。